

## 凱旋門賞

凱旋門賞は欧州最高峰レースですが、

欧州 2400m 路線では圧倒的強さを誇る主流血統ガリレオとシーザスターズの産駒が

人気馬も多く出走しながら、過去 5 回のロンシャン開催で 1 勝のみ。

有力なガリレオ産駒を多数擁するエイダン・オブライエン厩舎も過去 5 回の

ロンシャン開催で一度も馬券圏内がありません。

その理由は欧州の競馬なかでもフランス競馬は  
未脚の伸びを要求されやすい傾向があるから。

馬力と粘り強さが重要なイギリスやアイルランドとは異なっていて、  
同じ欧州でも適性的には一括りにできません。

しかし、凱旋門賞までに行われる欧州 2400m 路線の大レースのほとんどは

イギリス、アイルランドで行われています。

今年も上位人気になっている馬のほとんどがイギリス、アイルランドの調教馬。

2016 年にはオブライエン厩舎のガリレオ産駒が 1~3 着までを独占しましたが、

この年はシャンティで開催され、勝ちタイムも 2:23.61 のレースレコード。

ハイペースの消耗戦でコースも含め、例年とは異なる特殊なレースでした。

ロンシャンで行われる凱旋門賞では欧州競馬のなかでも  
フランス競馬特有の異なる適性、傾向を意識するのが馬券的には重要。

去年 5 番人気 2 着だったインスウープは母父がダンチヒ系。

3 着だったペルシアンキングは父と母父がどちらもダンチヒ系。

ペルシアンキングに関しては父がキングマン。

自身の戦歴や種牡馬としても非常に優秀なマイラーで、  
日本でも産駒のシュネルマイスターが NHK マイル C を勝ったように、  
東京芝にも適応するほどの素軽さとスピード。末脚の伸びを武器にする血統。

勝ったソットサスは。父母父がダンチヒ系のデインヒル。  
父シユーニはヌレイエフ系のマイラー。  
ノーザンダンサー系のなかではスタミナと馬力を武器にするガリレオや  
シーザスターズよりも、スピード指向の血を持つ末脚型に向いていて、  
ペルシアンキングは 1800m 以下でしか勝ったことがなかったように、  
距離適性の適性が短めに振れているような馬ほど向いています。

去年人気になって凡走したストラディヴァリウスは  
シーザスターズ産駒で実績が 3000m 以上に偏っていた馬。  
長距離で実績がある馬はむしろ危険です。

ネヴァーバンド系の血を持つ馬が強いのもこのレース特有の傾向。  
ネヴァーバンド系のような欧州で繁栄するナスルーラ系は

イギリスやアイルランドでは父系として今一つですが、フランスではグレイソヴリン系やレッドゴッド系も繁栄しています。

その理由は馬力よりもスタミナ指向の伸びに優れるから。日本でもトニービン産駒が東京で強かったように長い直線でしっかりとした末脚を使うような馬が出やすい系統。

インスウープは父がネヴァーベンドのクロスを持つ種牡馬。過去に人気薄で馬券になった馬をみても、2019年に9番人気1着のヴァルトガイストが母母父ネヴァーベンド系。

2018年10番人気3着のクロスオブスターズも母母父ネヴァーベンド系でした。

本命はタルナワ。

父のシャマーダルは自身、産駒ともフランス、マイルで優秀な実績を残すスピード指向のノーザンダンサー系。

母父ケーブクロスはダンチヒ系のマイラーで、産駒から凱旋門賞勝ち馬を複数輩出。

凱旋門賞向きのスピード寄りの戦歴。

G1を勝ったのはロンシャンとアメリカ。

4着以下になったのがどちらも凱旋門賞とは相反する面もある

イギリスの重い馬場、タフなコース。

直線が平坦なコースでの末脚に優れていて、  
凱旋門賞向きの血統と戦歴。

前走でハイレベルな 2000m である愛チャンピオンステークスを  
使っていることもこのレースに向けては良い経験。

クロノジェネシスは父が欧州型ナスルーラ系のバゴ。  
現役時代には凱旋門賞を鋭い末脚で勝った馬。

これまで凱旋門賞を連対した日本馬の 3 頭(オルフェーヴル、ナカヤマフェスタ、エルコンド  
ルパサー)に共通するのは 1800m 以下で重賞を勝っていた点。

クロノジェネシスも 1600m で重賞を勝っているように、  
このレースに必要な反応の速さも備えています。

人気薄ではシリウエイ。

父母父がダンチヒ系のデインヒルなのは一昨年 3 着、去年 1 着ソットサスと同じ。

母父は当レースに向く欧州型ナスルーラ系のケンダルジャン。  
母母父ゴールドアウェイはフランスで実績を残したノーザンダンサー系のマイラー。

ロンシャン開催だった過去 5 回の 5 番人気以下で馬券になっているのが

全てフランス調教馬。見逃せない傾向。

アダイヤーの父フランケルはノーザンダンサー系の名マイラーで現在の欧州を代表する名種牡馬。ガリレオの系統ですが、常々書いているようにフランケル産駒は母父デインヒルの影響を強く受けます。当レース向きの種牡馬。

母父のドバウイ、母母父のカーリアンも欧州型のなかではフランス寄りのスピード指向。

イギリスダービー、キングジョージとイギリスで G1 を 2 勝しましたが、本質的にはフランスなど平坦なコースや軽い馬場の方が高いパフォーマンスを出せる可能性も高い血統。

ただし、春のシーズンも 2 度叩いてダービーを勝ったように、ぶっつけのローテーションは不安材料。

スノーフォールはディープインパクト産駒でも母父ガリレオの影響を強く受けた馬。2 歳時の 1600m 以下で結果を出せなかったように、スピードに欠けていて、重い馬場、上がりがかかるレースでバテない強みを活かすタイプ。前走は平坦なコースの上がり勝負でキレ負け。ただ、今回は道悪になりそうな点は前走に比べ前進材料。

ディーブボンドはスタミナ、馬力タイプに出やすいキズナ産駒の牡馬。  
父のキズナも前哨戦を勝って、本番は完敗。

戦歴も重賞勝ちは 2200m 以上のみ。

日本馬で好走しているパターンにも当てはまらず、2 走前が 3200m。

前走もスローペースの 2400m を使っているのはこのレースに向けては不利な経験。

◎4 タルナワ

○7 クロノジェネシス

▲12 シリウエイ

△10 アダイヤー

おさえ(タルナワ、シリウエイからの 3 連系 2 頭軸の相手)

15、5、6、11、2